



平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう～



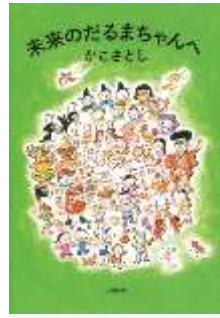
7月12日は「宇都宮市平和の日」

7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

昭和20年7月12日深夜、第2次世界大戦の中、宇都宮に空襲がありました。宇都宮市では、平和を願い、この日を「宇都宮市平和の日」とし、7月12日から終戦日である8月15日までを「宇都宮市平和月間」と決めました。この期間中、宇都宮市内の図書館では、平和関連の本などを集めたコーナーを開設しています。あわせて、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

■大人向けの本

<p>【凡例】 『本のタイトル』 著者 出版社 出版年 本を所蔵している図書館 中＝中央図書館 東＝東図書館 南＝南図書館 上＝上河内図書館 河＝河内図書館 () 内は請求記号と著者記号を表記 概要</p>	<p>『戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日』 編集工房随想舎／編 随想舎 1989 中・東・南・河 (K200.7 ズ) 本書は、昭和20年8月15日の栃木県民の体験談である。空襲・食糧難・学童疎開・勤労働員そして、肉親・友人の出征・戦死など。戦争が遠く離れた時代や地域のものではないことと、平和の大切さを知る。</p>
<p>『うつのみやの空襲』 宇都宮市教育委員会／編 宇都宮市教育委員会 2001, 2011 全館 (K210.7 ウ) (213.2 ウ) 宇都宮市の「戦災記録保存事業」の報告書。近代の宇都宮の歴史から、戦後の平和への道のりまでを多数の写真や資料、市民への聞き取り調査などでわかりやすく記録している。</p>	<p>『宇都宮空襲の記憶』 宇都宮市平和委員会／編 宇都宮市平和委員会 2005 中・東・南 (K390 ウ) (K950 ウ) 昭和20年7月12日に起きた宇都宮大空襲当日の記憶を中心に、市民が自身の戦争体験をつづった記録集。当時の宇都宮市で起きた、九つの貴重な体験が収録されている。</p>
<p>『二荒山は炎の中に』 宇都宮平和祈念館建設準備会／編 随想舎 1992 中・東・南・河 (K390 ウ) (090 ウ) 宇都宮空襲・戦災の実態を多くの図版や写真、絵を使い、分かりやすく解説。市民による宇都宮空襲の切実な体験談を交え、身近なところから平和を考える1冊。</p>	<p>『実録！宇都宮大空襲』 徳田浩淳／著 宇都宮平和祈念館をつくる会 1999 中・南 (K390 ト) 当時市役所に勤務していた郷土史家の徳田浩淳氏が、宇都宮大空襲のあった7月12日から19日までの一週間を自身と家族の体験を中心に克明に記録したもの。</p>



『未来のだるまちゃんへ』

かこさとし／著 文藝春秋 2014

中央・東・南 (726.5 カ)

飛行機乗りになりたかった少年時代のこと、戦時下から敗戦後にかけての学生時代の様子が書かれている。19歳で敗戦を迎えたとき戦争に負けて態度を変えた大人に失望した著者は、子どもたちに役立ちたいとセツルメント活動に励んだことが絵本創作の原点となる。最後に、これから生きる子どもたちへのメッセージが記されている。

『戦争まで 歴史を決めた交渉と日本の失敗』

加藤陽子／著 朝日出版社 2016

全館 (210.7 カ)

日本が戦争の道を選んだのはなぜか。より良い道を選べなかった原因を探る。過去を学び、未来につなぐ。



『わたしの町は戦場になった』

ミリアム・ラウィック／著

フィリップ・ロブジョワ／著 東京創元社 2018

中央・東・南 (956 ラ)

ジャーナリストの著者が出会った13歳の少女は、シリア内戦下での日記を残していた。何気なく日常を過ごしていた一方で、シリアでは何が起き、子どもたちの生活はどう変わったのか？一人の少女が、内戦下の日々をありのままに綴った21世紀版『アンネの日記』。

『平和をつくるを仕事にする』

鬼丸昌也／著 筑摩書房 2018

中・東・南 (319.8 オ)

紛争地帯で起きている現実を目の当たりにし、「今、自分に何ができるのだろう」と考えた著者が、地雷や子ども兵をテーマに講演を重ね、すべての人が平和に関わるためのヒントを語る。

『たじろがず沖縄に殉じた荒井退造』

「菜の花街道」荒井退造顕彰事業実行委員会／著

下野新聞社 2015

全館 (K289 アライ. タ)

宇都宮市出身でありながら沖縄戦時に警察部長を務めた荒井退造。戦後70年を節目に、その功績が大きくクローズアップされている。講演録など様々な資料を交え、荒井退造の姿が描かれる。

『「国境なき医師団」を見に行く』

いとうせいこう／著 講談社 2017

中央・東・南・上河内 (329.3 イ)

世界の紛争地域や貧困地域で医療・人道援助活動を行う「国境なき医師団」。南スーダンからの難民が100万人を超えたウガンダの国境地帯など、その活動に同行し、リアルな現場を訪ねて描くルポルタージュ。「世界の今」と「人間の希望」とは？

『ノーモアヒロシマ・ナガサキ』(英文併記)

黒古一夫／編 清水博義／編 James Dorsey／訳

日本図書センター 2005

全館 (319.8 ク)

被爆した広島・長崎の人々の様子や街並の写真、被爆者の手による絵画作品など原爆被害の悲惨さを伝える資料が収められている。本文は英文併記。

『トットちゃんとソウくんの戦争』

黒柳徹子／著 田原総一郎／著 講談社 2016

中・東・南 (319.8 ク)

戦争は何も知らない子どもの心まで深く傷つける。それを身にしみて知っている最後の世代の黒柳徹子と田原総一郎。太平洋戦争が始まった当初、小学生だった2人が「戦争体験」と「戦争責任」のすべて、平和の大切さを語る。

『憲法と君たち』

佐藤功／著 時事通信出版局 2016

全館 (323.1 サ)

改憲か護憲かで揺れていた1955年に子どもたちに向けてかかれた本。憲法は何のために、どのようにして作られたかを解説。平和な国家とはを語る。

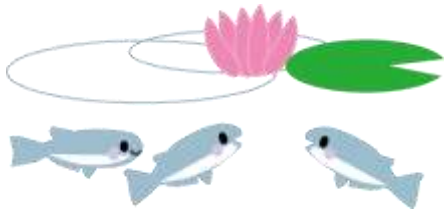
『戦争が立っていた 戦中・戦後の暮らしの記録』

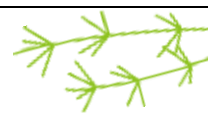
拾遺集戦中編』

暮らしの手帖社 2019

中・東・南 (210.7 ク)

『暮らしの手帖』誌上で原稿を募集した、庶民の戦争体験集『生まれてくる君へ』の続編。手記、手紙、絵、写真など、ひとつひとつの投稿が、戦時下の「出来事」を教えてくれている。

<p>『生きていてほしいんです』 田中和雄／編 童話屋 2009 全館 (911.5 タ) 田中和雄と谷川俊太郎が共同編集した反戦詩集。原民喜・峠三吉などの詩に、谷川俊太郎の詩を織り交ぜた全41編の詩には、強い衝撃を受ける。その行間にある深い思いに、戦争とは何か、平和とは何かを改めて考えさせられる。</p>	<p>『黒い雨』 井伏鱒二／著 新潮社 2003 全館 (F イブセ) 原爆の激しさ、恐ろしさを声高に表現する作品が多い中、この作品は被爆者の日常をただ淡々と描いている。市井の人の上に冷たく降り注ぐ黒い雨。静かな光景が原爆の残酷さを際立たせ、平和の大切さを強く訴える。</p>
<p>『世界の果てのこどもたち』 中脇初枝／著 講談社 2015 中・東・南・河 (F ナカワ.ハ) 珠子・茉莉・美子は、満州で出会い、ひょんなことから友情が芽生える。しかし、戦争が3人を引き離し、日本と中国で別々の人生を歩んでゆく。戦争に翻弄された3人の少女たちの物語。</p>	<p>『レーナの日記』 エレナ・ムーヒナ／著 みすず書房 2017 南 (985 ム) 1941年9月、ナチス・ドイツ軍に包囲されたレニングラード市。食料と燃料の供給が絶たれ、飢餓と爆撃と極寒の中、未来への希望を胸に16歳の少女が日記に綴った独ソ戦下の生活の記録。</p>
<p>『原爆の子 (上)・(下)』 長田新／編 岩波書店 2010 全館 (916 オ) 自らも広島で被爆した編者が、平和教育のために編集した原爆体験手記。原爆によって被害を受けた少年少女1,175名の手記から選ばれた105篇を収録。広島の少年少女たちの心に消えない傷痕をのこした原爆の恐ろしさを教えてくれる、希有の記録である。</p>	<p>『子どもたちの8月15日』 岩波新書編集部／編 岩波書店 2005 中・東・南 (916 イ) 1945年8月15日は終戦の日。その日を子どもたちはどのように迎えたのか。戦争を乗り越えてきた、各分野で活躍している著名人33人が当時の様子を描く。実体験なので、戦争の怖さをリアルに感じられる。</p>
	<p>『戦中・戦後の暮らしの記録』 暮らしの手帖社 2018 中央・南 (210.7 ク) 教科書には書かれていない、普通の人の暮らしが確かにそこにあった。戦中だけではなく戦後の混乱期まで、人はどう生きのび、どう死んでいったのか。「戦争を二度と繰り返してはならない。」読み終えた後に受け取るメッセージは熱く重い。</p>
<p>『知らなかった、ぼくらの戦争』 アーサー・ビナード／編著 小学館 2017 中・東・南 (916 ビ) 太平洋戦争体験者を訪ね歩いた、文化放送の戦後70年特別番組『アーサー・ビナード「探しています」』の中から、23名の対談を採録し再構成。広島・長崎の被爆者、学徒動員経験者などの体験談から平和について考える。</p>	<p>『夜と霧』 ヴィクトール・E・フランクル／著 池田香代子／訳 みすず書房 2002 中・南・上河・河 (946 フ) 第二次世界大戦中、心理学者・精神学者だった著者は、ナチスにより強制収容所に収容された。強制労働、懲罰、選抜。過酷な現実により、多くの被収容者が感情を失い死に向かう極限の中で、生と死を分けたものは何だったのか。</p>
<p>『アウシュヴィッツの図書係』 アントニオ・G・イトウルベ／著 小原京子／訳 集英社 2016 全館 (963 イトウ) アウシュヴィッツ強制収容所内に、ひっそりと作られた学校。そこには、秘密の図書館がある。14歳のディタは、その図書係に任命される。ナチスの監視や死の恐怖・絶望の中、葛藤しながらも、本を支えにして生きぬいた14歳の少女の姿を描く。</p>	<p>『総員玉砕せよ』 水木しげる／著 講談社 1995 全館 (C ミズキ) 戦争を一兵士の側から書いた記録は数多くとも、当時を体験した漫画家だからこそ描けることがある。敗色が濃厚な激戦地で、部隊は玉砕を命じられる。立派な人も愚かな人も登場し、戦場のリアルさ・無意味さを訴えかける。</p>



■子ども向けの本

<p>『忘れないでください 宇都宮空襲の記憶』 小林新子／文 相原千草／絵 随想舎 2008 全館 (K950 コ) (090 コ) 著者が中学1年生のときに体験した宇都宮空襲と戦後の暮らしについて書いた本。私たちの住む宇都宮で、戦争はどんな爪あとを残したのか。もう二度と戦争を起こさないために、今ある平和な暮らしを見つめるために、小林さんの記憶にふれてみよう。</p>	<p>『宇都宮大空襲 一少女の記録』 小板橋武／絵・文 随想舎 2007 全館 (K950 コ) (E03 コ) 昭和20年7月12日。恐れていた空襲がきた。夜中、アメリカ軍の飛行機がたくさん飛んできて、宇都宮に爆弾を落とす。街は焼かれ、500人以上の人が犠牲になった。当時、中学1年生だった少女が体験した宇都宮大空襲の記録。</p>
<p>『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』 ディディエ・デニクス／文 PEF／絵 湯川順夫／訳 戦争ホーキの会／訳 エルくらぶ 2019 中・東・南 (E01 デ) 1933年にヒトラー政権が成立してから、1945年に第二次世界大戦が終結するまでの12年間に、ドイツで起こったことを架空の家族の目を通して描いた。</p>	<p>『焼けあとのちかい』 半藤一利／文 塚本やすし／絵 大月書店 2019 全館 (E01 ハ) 戦争がはじまって世の中は変わってしまう。家族も、学校も、友達も、生活も、人の心も…。著者である半藤一利さんの体験を絵本にする。</p>
<p>『この本をかくして』 マーガレット・ワイルド／文 フレヤ・ブラックウッド／絵 アーサー・ビナード／訳 岩崎書店 2017 全館 (E02 ワ) 敵の砲弾があたって、図書館は大破。お父さんが借りていた、自分たちのルーツが書かれている本だけがただ1つ残った。ピーターは本と一緒に避難を続ける。戦争がはげしくなっていく中、それでも守り続けなければいけない大切なものがあることを教えてくれる絵本。</p>	
<p>『ちいちゃんのかげおくり』 あまんきみこ／作 上野紀子／絵 あかね書房 1982 全館 (E03 ア) 「かげおくり」はちいちゃんのおとうさんが教えてくれた遊び。ちいちゃんは一人でかげおくりをしながら、家族が来るのを待っている。戦争はちいちゃんから家族を奪ってしまった。幼い少女の目から見た戦争の物語。</p>	<p>『空にさく戦争の花火』 高橋秀雄／作 森田拳次／絵 今人舎 2015 全館 (E03 タ) 亡くなった、ひいおじいちゃんの春造さんは、花火が嫌いだった。ある日、春造さんの戦友が、訪ねてきた。戦時中は、花火の音も煙も、爆発して光ったら、艦砲射撃されているのと同じという話を聞く。作者は宇都宮在住。</p>
<p>『ガラスの梨』 越水利江子／作 ポプラ社 2018 全館 (913 コシ) 主人公である3年生の笑生子は、作者の母親がモデル。徹底した取材のもと、戦争のもたらす悲しみやそこで生きた人々の姿を描いた本格的戦争児童文学。胸に迫る描写が多いが、強い家族の繋がりやたくましく生きる笑生子に励まされる作品。</p>	<p>『ひろしまのピカ』 丸木俊／文・絵 小峰書店 1980 全館 (E03 マ) 広島に原爆が投下されたのは、1945年8月6日午前8時15分のことだった。みいちゃんは、お父さんやお母さんと一緒に朝ごはんを食べていた。その時、それは突然やってきた。すさまじい光が突きぬけたかと思うと、何もかもが地獄絵のように変わってしまった。</p>



<p>『字のないはがき』 向田邦子／原作 角田光代／文 西加奈子／絵 小学館 2019 全館 (E03 ム) 戦争が激しくなり、疎開することになったちいさい妹。まだ字の書けない妹に、お父さんはたくさんのはがきを持たせた。「元気な日は、はがきにまるを書いて、毎日1枚ずつポストにいれなさい。」字のないはがきが、幼い心を映し出す。</p>	<p>『へいわとせんそう』 たにかわしゅんたろう／文 Noritake／絵 ブロンズ新社 2019 全館 (E04 タ) 「へいわのボク」と「せんそうのボク」。何が違って何が同じなんだろう。ページを開いてくらべてみるとみえてくる。端的なことばとイラストで平和や戦争について考えさせる1冊。</p>
<p>『絵で読む広島原爆』 那須正幹／文 西村繁男／絵 福音館書店 1995 全館 (210 ナ) 広島に落とされた原爆を、時間を追って、上空から見た絵で克明に再現した絵本。大きな町を一瞬でなぎたおした爆発のすさまじさがわかる。絵は、服装や建物を当時の住民に聞き、忠実に描かれている。原爆がどのように作られ、どうして広島に落とされたのかについても、図や年表で詳しく説明されている。</p>	<p>『ガザ 戦争しか知らないこどもたち』 清田明宏／著 ポプラ社 2015 全館 (310 セ) 国連職員の著者がイスラエルと戦争中の2014年、ガザ地区を訪問した時のレポート。ずっと戦争にさらされている子どもたちと、その地域で人のために働く大人たちの姿が、写真と簡潔な文章で描かれる。「普通のこども」として成長できる平和を望む本。</p>
 	<p>『アンネのバラ 40年間つないできた平和のバトン』 國森康弘／文・写真 講談社 2015 全館 (627 ク) 東京都杉並区にある高井戸中学校で咲くバラ「アンネ・フランクの形見」。アンネのバラを育てることは平和への願いを受け継ぐこと。この花を枯らすことなく40年間、バラを育ててきた人々の思いや平和への思いを美しいバラの写真とともに感じられる写真絵本。</p>
<p>『平和を考えよう(全2巻)』 ①戦争の恐さを感じとる力を ②教室も外国も世界はひとつ』 竹中千春／監修 下郷さとみ／文 あかね書房 2013 南 (310 ヘ) 平和には、「命の安全」と「人間らしい豊かな生活」が大切であることを時間と空間を軸に学べる2冊。大きな文字で読みやすい文章と毎頁のカラフルなイラストが、難しい事柄を素晴らしくわかりやすくしている。現代史を学ぶのにも良い本。</p>	<p>『ある晴れた夏の朝』 小手鞠るい／著 偕成社 2018 全館 (913 コデ) 戦争を経験していない高校生8人が当時の資料を読み解き、広島と長崎に落とされた原爆の是非について討論会を行うことになった。日系アメリカ人のメイは否定派の一人として演壇に立つことになり…。戦争と平和について問いかける物語。</p>
<p>『ガラスのうさぎ』 高木敏子／作 武部本一郎／画 金の星社 2005 中・東・南・河 (913 タカ) 12歳の敏子は、東京大空襲で母と妹2人を亡くしてしまった。さらに目の前で、父を機銃掃射によって亡くし、たった1人で父を火葬する敏子…。どこまでも続く暗闇のような戦中戦後の中をけなげに生きていく少女の体験記。</p>	<p>『出発 から草もようが行く』 小泉るみ子／作・絵 新日本出版社 2018 全館 (E03 コ) 命は国に捧げるのだと厳しい訓練を重ねてきた浩。死ぬ覚悟でいたのに終戦を迎え「生きろ」といわれてもどう生きていいのかわからない。終戦で生き方が変わってしまった少年の心の葛藤を描いた絵本。</p>



<p>『みんなが知りたい！世界と日本の戦争遺産』 歴史学習研究会／著 メイツ出版 2017 中・東・南・河 (200 レ) 原爆ドーム、平和の塔、対馬丸記念館、陸軍知覧基地跡、バンザイ・クリフ、アウシュビッツ強制収容所など、日本と世界48ヶ所の「戦争遺産」を紹介。ふり仮名つき、写真やイラストが豊富で、調べ学習にもおすすめの本。</p>	 
<p>『ヒットラーのむすめ』 ジャッキー・フレンチ／作 さくまゆみこ／訳 鈴木出版 2004 中央・東・南・河 (933 フレ) スクールバスを待つ間、退屈しのぎに始めた作り話「お話ゲーム」。雨の降るその日、アンナが話し始めたのは「ヒットラーのむすめ」の話だった。もし自分がヒットラーの子どもだったら…あなたは どうしますか？</p>	<p>『ぼくが見た太平洋戦争』 宗田理／著 PHP 研究所 2014 全館 (916 ソ) 太平洋戦争の戦時下に中高時代をすごした著者が、豊川海軍工廠付近への大空襲、三河の大地震、空腹とダニやノミ・シラミとの闘い、中学生に課された「タコソボ特攻作戦」「吹き矢作戦」などの体験を交えつつ、戦争の愚かさや悲惨さを語る。子どもたちに語りかける形で書かれた、戦争体験記。</p>
<p>『子どもたちへ、今こそ伝える戦争』 長新太／著 和歌山静子／著 那須正幹／著 講談社 2015 全館 (916 チ) 一番大事なことは、この本に登場する19人の子どもの本の作家の話は、すべて、つくり話ではないということ。誰もが、子どもたちが、戦争の真実を知ること、悲しい過ちを二度と繰り返さない日本になることを願う。</p>	<p>『ほんとうにあった戦争と平和の話』 野上暁／監修 講談社 2016 全館 (916 ノ) 世界各地では今も戦争が続いている。この本は、戦争中でも決して希望を失わずに生き抜こうとした人、平和な世の中の実現のために立ち向かっている人たちの実話である。戦争をなくすにはどうしたらいいかを自分で考えることができる本。</p>
<p>『いしぶみ 広島二中一年生全滅の記録』 広島テレビ放送／編 ポプラ社 2015 中・東・上・河 (916 ヒ) 昭和20年8月6日原爆で未来を絶たれた広島二中一年生の哀しみの記録。当日清掃作業のため広島市の中心、中島新町の本川土手にいた広島二中の一年生321名と先生4名は、全滅した。子どもたちはどのように死んでいったのかが記されている。</p>	<p>『戦争体験を「語り」・「継ぐ」』 大石学／監修 学研プラス 2018 中央・東・南 (210 オ) 広島、長崎、沖縄を中心に、「戦争体験を「語り」・「継ぐ」活動をしている施設や人」を取材し紹介している。平和について自分ならどう思うかを考えるきっかけになる一冊。</p>

絵本の 請求記号について

E01は空色、E02は緑色、E03は赤色、E04は黄色の背ラベルにそれぞれ対応しています。続いて、記載されているカタカナは、著者名などの頭文字を表示しています。背ラベルに一文字で表示されています。



発行 令和2年7月
 編集・発行 宇都宮市立図書館
 問合せ 宇都宮市立中央図書館
 〒320-0845 宇都宮市明保野町 7-57
 電話 028-636-0231